

6月25日(火)、2年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は、「かさつ発見カード」です。モデル文から、詳しく観察するためのポイントを見付け、「観察名人(詳しく観察して気付いたことを進んで書くことができる児童)」になることが目標です。

初めに、二つのモデル文(観察カード)を提示しました。一つは、「なすの花がさきました。花の色はむらさきと黄色です。(以下略)」もう一つは、「なすの花が二つさきました。花の色はむらさきで、まん中は黄色です。(以下略)」となっています。このように、数や場所を示すことで、より詳しい観察カードになることに気付かせます。児童は、後者を詳しい観察カードと答え、「大きさがきちんと書いてあるから」「いろいろ調べてあるから」など、理由を答えました。



【モデル文を見比べる様子】

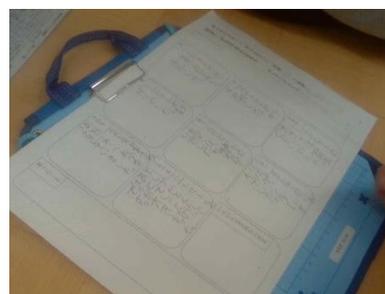
次に、詳しい観察カードについて、全体で、どこが詳しいのかを確認しました。教師が「昨日は全部つぼみだったのに、今日2個も咲きました」と読むと、児童から「ああ、詳しい!」「『2個も』のところ!」と声が上がりました。他にも、花の形について「星の形」と表したり、花びらについて「しわしわ」と表したりしていることにも気付くことができました。そして、詳しく観察するための大事なポイントを確認しました。ポイントを黒板に示しておくことで、児童にとって、この後の活動でどんなことに気を付けて観察をすればよいのかが分かりやすくなります。

そして、いよいよ、野菜の観察です。観察する部分を、各自で「葉」「実」などと決め、それぞれの形、大きさなど、詳しく観察をし、観察メモに書きます。すると、グループで、「長さは?」や「においはどうかな」と言って、ものさしを使って大きさを測ったり、顔を近づけてにおいをかいだりする児童がいました。中には「下から見るとすごい」と言っていた児童のまねをして野菜を下から見る児童もいて、協働的に活動することができました。



【野菜を下から見る児童】

観察の時間が終わりました。「あと1個だった」と言っていた児童の観察メモを見ると、びっしりと書かれていました。短い時間でも、観察の視点をしっかりと与え、詳しい観察カードのモデル文を見せることで、児童は一生懸命に観察し、メモを取ることが分かりました。



【詳しく書かれた観察メモ】

児童一人一人は、野菜が違ったり、「葉」「実」など見る部分が違ったりと個別に観察をしていました。しかし、「大きさ」「形」「におい」などの観察の視点が共通しているので、グループで協働的に声を掛け合いながら観察をすることができました。今回の観察メモを基に、どんな観察カードが出来上がるのか、楽しみです。